

高橋 蔦美教授退任記念論文集の発刊に寄せて

創価大学経営学部長 前 田 清 隆
創価大学経営学会会長

経営学部教授高橋蔦美先生におかれましては、2010年(平成22年)3月をもって定年を迎えられ、退任されることになりました。まだまだ若々しく、お元気でいらっしゃいますが、時のたつのは早いもので残念でなりません。

先生は、慶應義塾大学経済学部をご卒業後、貿易会社勤務を経て、同大学の大学院商学研究科に学ばれました。博士課程を終えられて専修大学で教鞭をとられた後、1976年(昭和51年)4月、本学の経営学部開設と同時に助教授(現准教授)に就任され、1988年(昭和63年)に教授に昇任されました。本学では34年の長きにわたって教育と研究にご尽力くださいました。先生は、本学部では主に「経営組織論」を担当されてきました。組織論に対して問題意識を持たれたきっかけは、貿易会社時代の同僚や先輩たちの才能も発揮せず喜びもない姿にあったそうです。このことから「組織と個人」を理論的に解明したいと思立たれたのです。そうした動機から先生のご研究は、バーナードの組織論を手始めに、エンタープレナーシップやイノベーションへと展開されたことが、貴重な研究業績として残されています。1979年(昭和54年)には、1年間英国ロンドン・シティ大学ビジネススクールに在外研究に出られ、貴重な研究も積まれました。

先生は、本学の創立にも多大な貢献をされました。創価大学設立準備委員会のメンバーとして、教員の採用に尽力され、3人から専任教員就任の承諾を得られたとのこと。私自身が本学の経済学部1期生であり、入学時にこれだけの高名な教授陣がよくぞ集まったと驚くばかりでしたが、先生をはじめ設立に携われた方々の御苦労があったことを知ったのはずっと後になってからでした。

先生は、「経営組織論」以外に英語とドイツ語による「外書講読」や「演習」を担当されるとともに、経営学部生のみならず共通科目「企業と社会」や「共通総合演習」なども担当されて、全学的な教育にも献身されました。2003年(平成15年)度より開講された本学部の特色科目「人間主義経営論」において、「環境思想と人間主義経営」「平和と人間主義経営」「経営学における人間の問題：組織と人間」をテーマに講義を担当していただき、その学問構築にも精力的に貢献してくださいました。また本学部のビジネス公開講座においても「人を伸ばす組織への変革—その哲学とロジック—」「格差社会と人間主義経営」のテーマで広く市民に語っていただきました。先生の情熱的で優しいお人柄にひかれ、先生のゼミや外書講読の授業には、スポーツ推薦の学生を中心に多く集まるようになり、人気を博してこられたことは特記しなければなりません。

「社会も学生さん達のニーズもどんどん変化していくのに対して、教員は授業・講義を魅力あるものに変革していかなければなりません。授業・講義にこそ、イノベーションが必要であると思います」との先生の教育にかけられたお言葉を肝に銘じ、創価大学こそが「真のイノベーター」たらんと日々決意を新たにしてまいる所存です。

先生のご高恩に対し、教員一同心より感謝申し上げますとともに、先生の益々のご健康をお祈りし、引き続き私どもへのご指導ご鞭撻を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。